

ドレスデン工科大学滞在を終えて

物理学専攻 博士課程2年 小鷲智理

2019年7月15日から9月20日にかけて、ドレスデン工科大学 Center for Molecular Bioengineering(B CUBE)の Stefan Diez 教授のグループに滞在した。Diez 教授は、細胞内で微小管上を動いて細胞内小器官を運ぶキネシンというタンパク質の研究の第一人者である。滞在期間中、蛍光ビーズを結合したキネシンの微小管上での運動を、蛍光顕微鏡で二次元と三次元で観察し、専用のソフトウェアで解析した。ポスドクや教授と活発に議論を交わしながら研究を進め、一定の成果を上げることができた。また、新たな研究手法を学ぶことで、光学顕微鏡やキネシンの研究に関して視野を広げることができたと思う。

今回の滞在は、理学系研究科大学院学生海外派遣プログラム(GRASP)からご支援いただいた。海外派遣を全面的にサポートしてくださった理学系研究科国際化推進室の皆様、貴重な機会をくださった ALPS の皆様、快く受け入れていただいた Diez 先生、ご紹介いただいた岡田先生には深く感謝している。



B CUBE と玄関に飾られている模型